

使用説明書

※使用前には必ず本説明書を読み、注意事項を守って使用してください。

2020年1月改訂（18版）

指定

貯法	遮光して、2～10℃
有効期間	製造後2年2か月間

動物用医薬品
動物用生物学的製剤

承認指令書番号	22動薬第2995号
---------	------------

生物由来製品 劇薬 要指示医薬品 指定医薬品

炭そ予防液「KMB」

(一般的名称：炭疽生ワクチン（シード）)

【本質の説明又は製造方法】

本剤は、無莢膜弱毒炭疽菌34F₂株の芽胞浮遊液を加熱処理して増殖型の菌を殺したのち、濃度調整した生ワクチンである。

本剤は、白色の均質な半透明の懸濁液で、異物又は異臭を認めない。

本剤は製造工程で牛の乳、豚の肉、魚由来成分を含む原料を使用している。

【成分及び分量】

小分製品 1バイアル（10 mL）中

成分		分量
主剤	無莢膜弱毒炭疽菌34F ₂ 株（シード）	1 × 10 ⁸ ～ 5 × 10 ⁸ 個
保存剤	濃グリセリン	5.0 mL
等張化剤	塩化ナトリウム	0.085 g
溶剤	精製水	残量

【効能又は効果】

牛又は馬の炭疽の予防

【用法及び用量】

頸側又は背側の皮下に0.2 mLを接種する。

参考：少なくとも1年に1回、発生地域では6か月ごとの追加注射が望ましい。

【使用上の注意】

(基本的事項)

1. 守らなければならないこと

(一般的注意)

- ・本剤は要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
- ・本剤は効能又は効果において定められた目的にのみ使用すること。
- ・本剤は定められた用法及び用量を厳守すること。
- ・牛及び馬以外の動物に使用しないこと。

(使用者に対する注意)

- ・作業時には防護メガネ、マスク、手袋等の防護具を着用し、眼、鼻、口等に入らないように注意すること。
- ・作業後は、石けん等で手をよく洗うこと。

(取扱い及び廃棄のための注意)

- ・外観又は内容に異常を認めたものは使用しないこと。
- ・使用期限が過ぎたものは使用しないこと。
- ・本剤には他の薬剤（ワクチン）を加えて使用しないこと。
- ・小児の手の届かないところに保管すること。
- ・直射日光、加温又は凍結は、本剤の品質に影響を与えるので避けること。
- ・注射器具は滅菌又は煮沸消毒されたものを使用すること。薬剤により消毒をした器具又は他の薬剤に使用した器具は使用しないこと（ガス滅菌によるものを除く）。なお、乾熱、高圧蒸気滅菌又は煮沸消毒等を行った場合は、室温まで冷えたものを使用すること。
- ・ワクチン容器のゴム栓は消毒し、無菌的に取扱うこと。ゴム栓を取外しての使用は、雑菌混入のおそれがあるので避けること。
- ・使い残りのワクチン及び使用済みの容器は、消毒又は滅菌後に地方公共団体条例等に従い処分、若しくは感染性廃棄物として処分すること。
- ・使用済みの注射針は、針回収用の専用容器に入れること。針回収用の容器の廃棄は、産業廃棄物収集運搬業及び産業廃棄物処分業の許可を有した業者に委託すること。

2. 使用に際して気を付けること

(使用者に対する注意)

- ・本剤に含有される炭疽菌は人獣共通感染症の病原体である。人に対して、皮膚癰（よう）、気管支肺炎、出血性腸炎等の症状を示すことがあるので、使用時には十分注意すること。
- ・誤って人に注射した場合は、患部の消毒等適切な処置をとること。必要があれば本使用説明書を持参し、受傷について医師の診察を受けること。

本ワクチン成分の特徴

微生物名	抗原		アジュバント	
	人獣共通感染症の当否	微生物の生死	有無	種類
炭疽菌	当	生	無	－

- ・ワクチン瓶は破損するおそれがあるので、強い衝撃を与えないこと。
 - ・開封時にアルミキャップの切断面で手指を切るおそれがあるので注意すること。
- (牛又は馬に関する注意)
- ・本剤の注射後、少なくとも2日間は安静に努め、移動等は避けること。
 - ・副反応が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。
- (取扱い上の注意)
- ・よく振り混ぜて均一とし、使用すること。
 - ・注射部位は消毒し、注射時には注射針が血管に入っていないことを確認してから注射すること。
 - ・注射器具（注射針）は（原則として）1頭ごとに取替えること。
 - ・開封して一度注射針を刺したワクチンは速やかに使用すること。使い残りのワクチンは雑菌の混入や効力低下のおそれがあるので、使用しないこと。

(専門的事項)

①警告

本剤の注射前には健康状態について確認し、重大な異常（重篤な疾病）を認めた場合は注射しないこと。

②対象動物の使用制限等

牛又は馬が、次のいずれかに該当すると認められる場合は、健康状態及び体質等を考慮し、注射の適否の判断を慎重に行うこと。

- ・発熱、咳、下痢、重度の皮膚疾患など臨床異常が認められるもの。
- ・疾病の治療を継続中のもの又は治癒後間がないもの。
- ・発情中のもの、交配後間がないもの、分娩間際のもの又は分娩直後のもの。
- ・明らかな栄養障害があるもの。
- ・他のワクチン投与や移動後間がないもの。

③重要な基本的注意

ワクチン投与前後10日間程度の抗生剤の使用はワクチン効果に影響を与える可能性がある。

④副反応

- ・ときに発熱、注射部位の腫脹が認められるが、発熱は24時間前後で平熱にもどり、腫脹は1週間前後で消失する。注射局所が著しく腫れ、又は高熱を発した場合は直ちに治療すること。

参考：それぞれの製剤の使用説明書に従って、ペニシリン製剤を静脈内投与する。

また、経過に応じてペニシリン製剤を筋肉内投与する。

- ・流産を起こし易い素因をもつ妊娠牛では、流産を起こす場合がある。
- ・副反応が認められた場合は適切な処置を行うこと。

【包装】

10 mL/バイアル

【製品情報お問い合わせ先】

KMバイオロジクス株式会社 動物薬事業本部営業部

〒860-8568 熊本市北区大窪一丁目6番1号

TEL：096(345)6505 FAX：096(345)7879

製造販売元

KMバイオロジクス株式会社

熊本市北区大窪一丁目6番1号

獣医師、薬剤師等の医薬関係者は、本剤による副作用などによると疑われる疾病、障害若しくは死亡の発生又は本剤の使用によるものと疑われる感染症の発生に関する事項を知った場合において、保健衛生上の危害の発生又は拡大を防止するため必要があると認めるときは、上記【製品情報お問い合わせ先】に連絡するとともに、農林水産省動物医薬品検査所（<http://www.maff.go.jp/nval/iyakutou/fukusayo/sousa/index.html>）にも報告をお願いします。